

八笑人四編追加
河田

^ 13
3209
10

0 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9

村田

門へ 13
號 3209
卷 10

笑人四編追加自序

付麻此花曆は濫觴を過はる

琴通舎の大人江都名所を

題として諸君の玉海を集め

逸を撰り出板し多に摺本へ

昭和十年七月五日

只男へよ まごま 所謂手紙長吐し。 ごらん 見物のいと恐物。
待りし まご 花曆と あか 筆を置置り あせ 五七年。
内々書 とま 殿 かん 在 さ 平 なへ 一 ま づ ま 假令 まご 作者 まご ども
あ まご くの あ くの うま 雷 まご と あ くの まご はん まご と まご はん
ま まご 且 まご 催 まご 但 まご 先生 まご ぶ まご つ まご の まご ね まご と まご 色 まご は まご を

灰吹の まご 地 まご を まご 出 まご し まご さん まご と まご 嗽 まご さん まご 筆 まご を まご 扱 まご ね

干時天保五年甲午正月

全籠山下の市隠

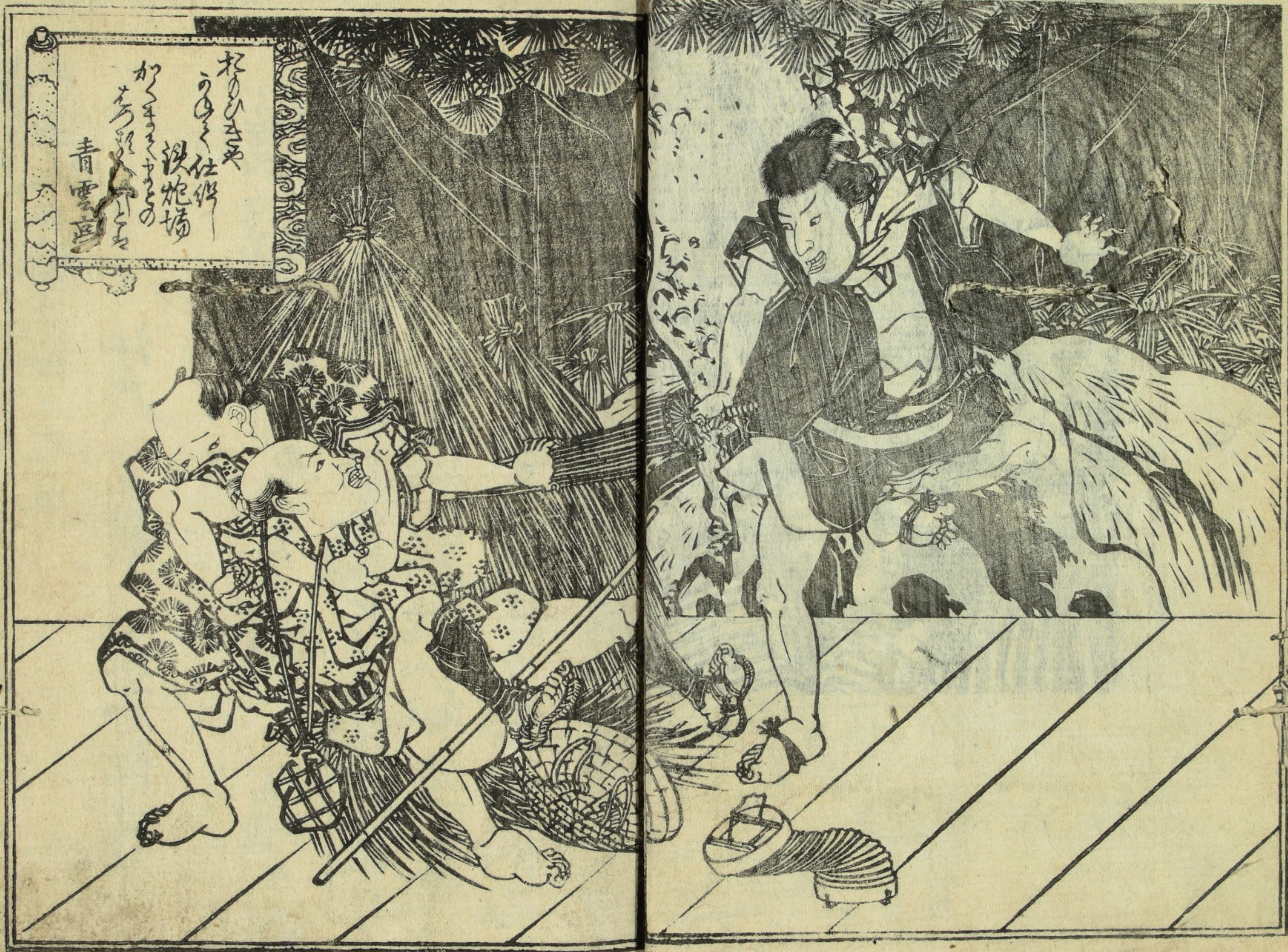
滝真鯉文述





遊方 妻の髪を
見ると 髪は
そのまゝ 遊の
せけを 青雲





おのひさま
うのひさま
鉄炮場
かくまひ
青雲画

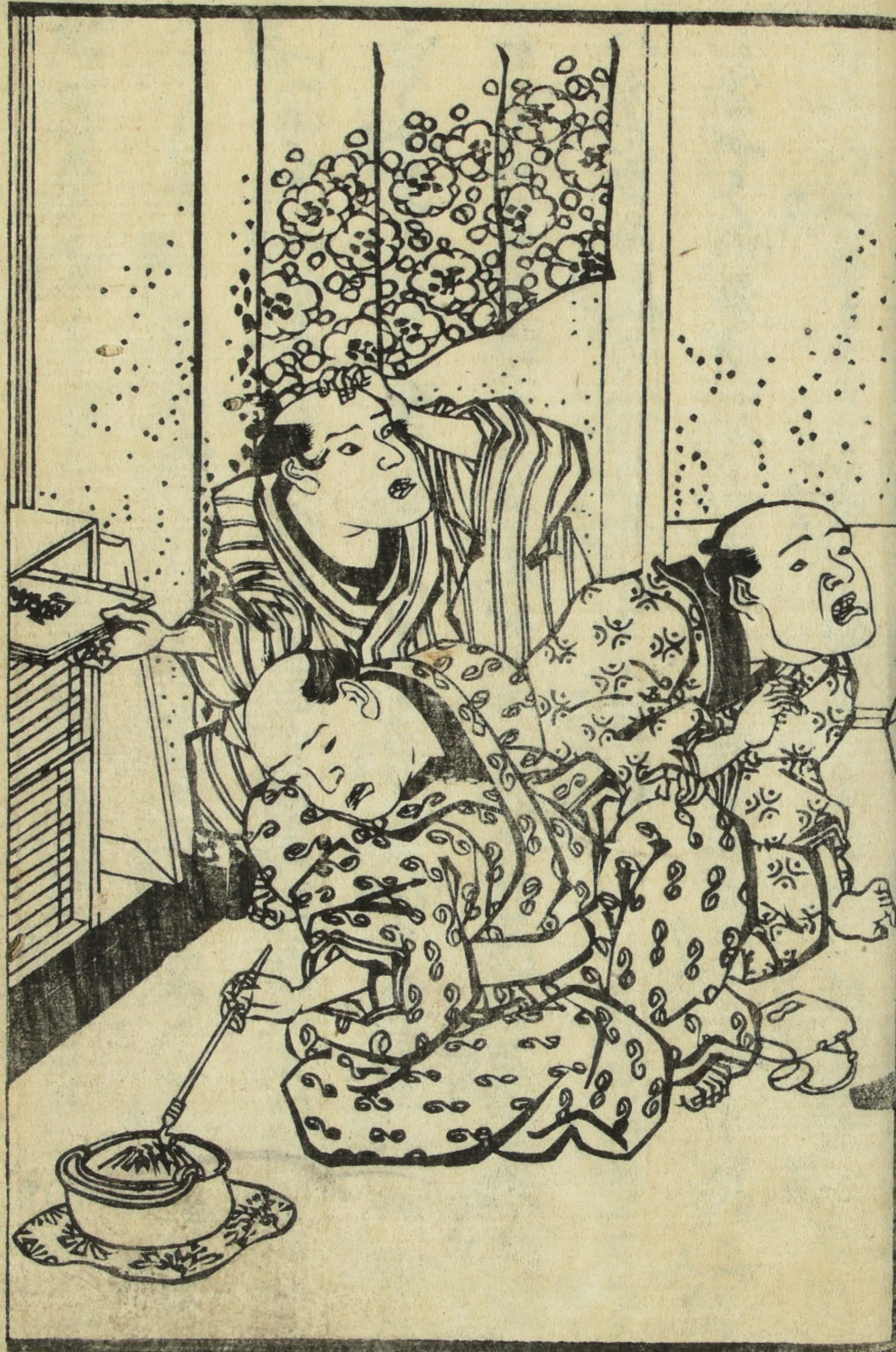
花八笑人四編追加之卷

江戸 童戯人 瀧亭鯉丈著



斯く八人の五段目の趣向をまき一
○ 定りて各例の酒
盛とあり。六人に喰ひたるもの相
あつた。悪地は難談
時とあり。然るに彼勢州屋質を
入る。左邊の
毒おもしろい。左二 王の質も
あつた。マアあつと

さうまゝだ。こゝろハトツト出酒ハ不調法で
一 ちやうど六段のやせうが平貝勢屋の旦那さまが
け度的一件で同じ後者仲間とのあつた。其
格ふかたをなすりまうて其替は仕やうござうた。
まう出酒ハともかくも一ツ上ケやせうト
後へ行く。さうあつた。さうあつた。さうあつた。
出酒ハ何分もさうあつた。さうあつた。さうあつた。



「さういふことこそ、

「奥のトロ、

「いふやうに、

「さういふことこそ、

「さういふことこそ、

「さういふことこそ、

「さういふことこそ、

「さういふことこそ、

「さういふことこそ、

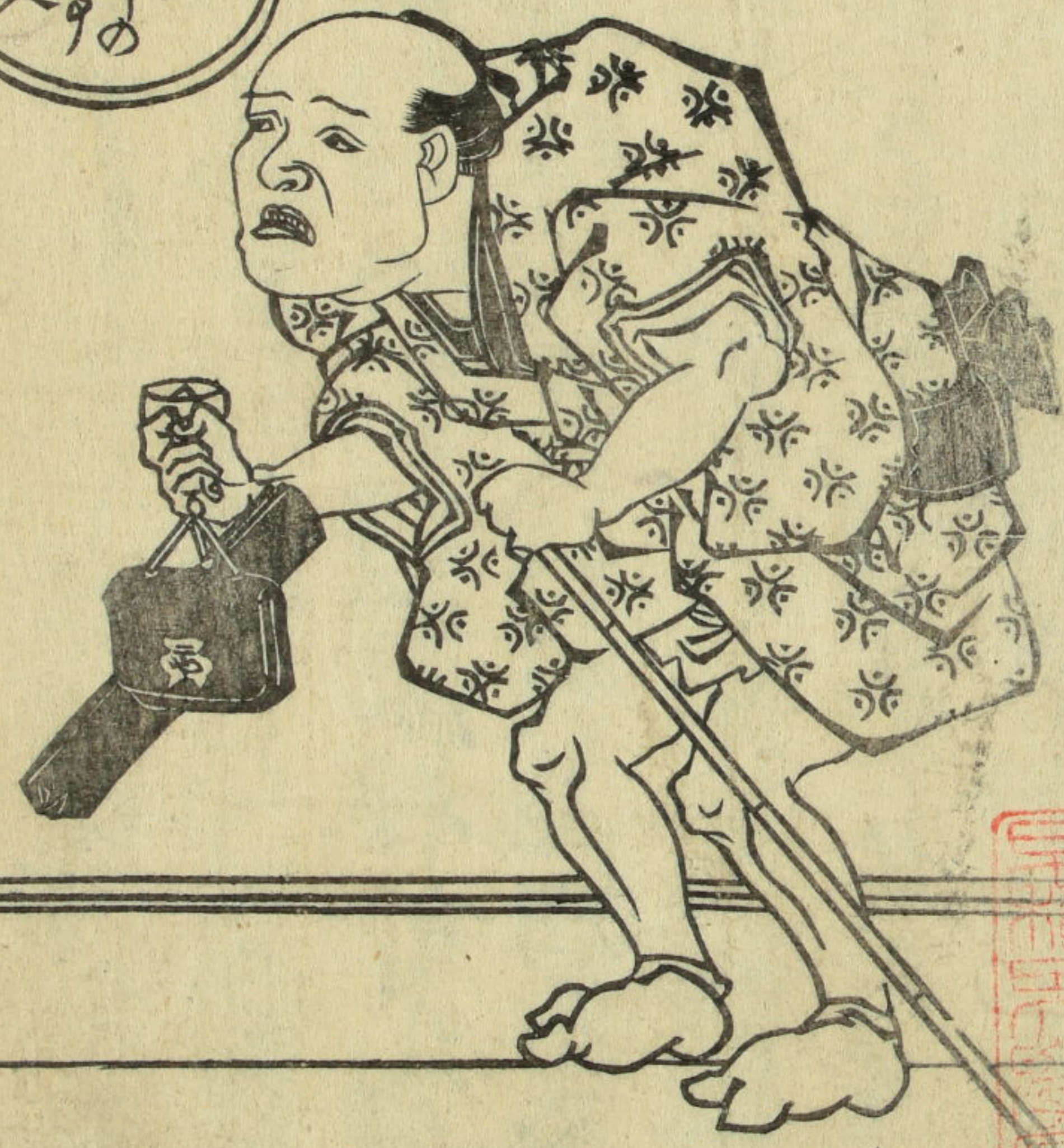
「さういふことこそ、

「さういふことこそ、

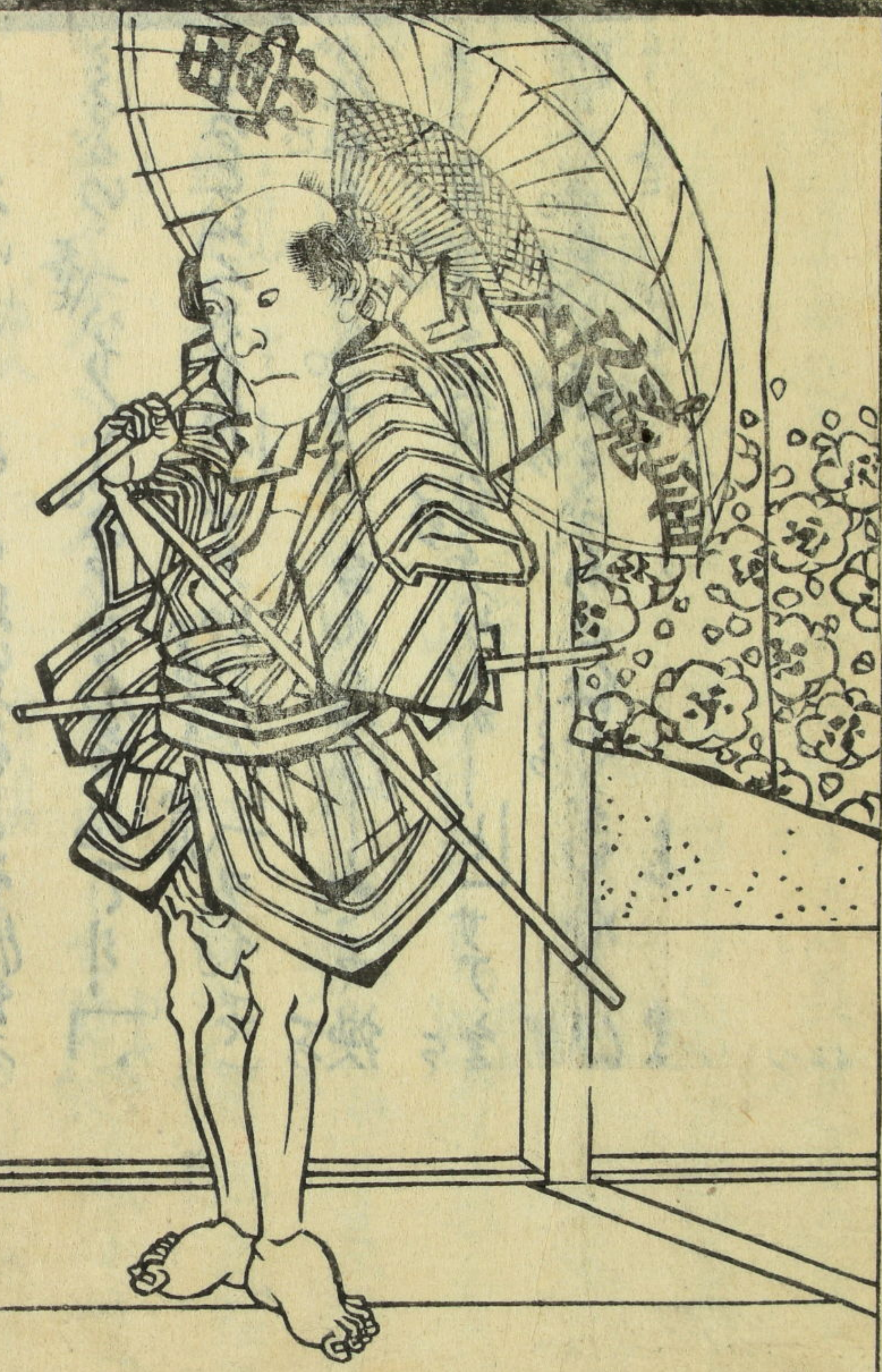
「さういふことこそ、

「さういふことこそ、

江戸下町あつたは
決地橋のきりぎりすの
はらう茶屋の
童戯人



木下尚江



田舎のきりぎりす

仕人を。武士のりうが。よりき。入る。殿判友公の。四佐先。お
の大事。變り。才も。是非。及。ぬ。我。ふ。ん。その。場。にも
「コレサ。天。公。の。と。う。り。り。」
せの。好。の。う。ら。ん。ら。ん。く。そう。變。り。け。づ。く。お。て。ひ。け。る。め。の。う
後。強。り。さ。ん。と。ん。と。い。は。ぬ。の。こ。じ。ぜ。コ。ウ。く。奇。妙。か。その。こ
の。う。首。へ。何。ゴ。ヨ。き。ん。む。と。の。み。の。へ。へ。ん。だ。が。い。は。り。は。ら。ぬ
け。る。ゆ。を。へ。坂。ま。く。し。び。ぶ。よ。う。り。ト。ッ。ウ。り。さ。る。の。う
首。ナ。ニ。ト。い。は。ぬ。の。こ。じ。ぜ。コ。ウ。く。奇。妙。か。その。こ
て。は。り。は。ら。ぬ。の。こ。じ。ぜ。コ。ウ。く。奇。妙。か。その。こ

い。ん。で。せ。う。ふ。お。一。は。骨。折。お。く。車。輪。を。か。う。う。オ。イ。え。ま。ら
の。こ。コレ。サ。勢。を。た。ゆ。よ。か。う。く。そう。亦。へ。ち。が。ら。る。や。う。な。る。と
の。後。人。せ。一。さ。う。と。も。わ。ら。う。ッ。その。あ。ら。ば。死。せ。の。う。ら。ぬ
と。お。う。も。眼。を。つ。つ。で。あ。う。ん。そ。と。よ。り。さ。り。の。を。さ。う。た。が
あ。ら。ひ。ま。う。も。目。の。つ。つ。の。う。ら。ぬ。首。チ。ヨ。リ。マ。ア。サ。是。美。美
へ。ま。う。ぐ。ら。り。ん。よ。よ。ま。ら。な。り。し。め。ア。車。輪。を。か。う。う。オ。イ。え。ま
ま。や。ん。ん。あ。ら。う。が。あ。や。ん。ん。む。が。う。付。で。死。な。る。も。い。は。れ。ま。ら
あ。ら。う。ぐ。ら。り。ん。よ。よ。ま。ら。な。り。し。め。ア。車。輪。を。か。う。う。オ。イ。え。ま
あ。ら。う。ぐ。ら。り。ん。よ。よ。ま。ら。な。り。し。め。ア。車。輪。を。か。う。う。オ。イ。え。ま

山 子 人



山 子 人



山 子 人
う 様 八 百 の じ ゅ り
せ り ぬ
つ き 換 籠 を
か げ ぬ
八 世 舎

物さひひらちんさうしんてんかうしんてん[さく]
とあつた(ま)いりていしん[さく] サアはう今又もあ
ぐらで眼公管も果てんをばぐ。おのこつらろしんてん
の相多し 眼七 眼七 眼七 眼七 眼七 眼七 眼七 眼七
と後でうう天窓のあつたト 左下分 眼七 眼七 眼七 眼七 眼七 眼七
とあつたあせう。質も果てんてい筋の通りやうしん
へ行く。イヤ何うむうもたまらざる不調はぐしん 左下分
そこの替の致動ゆい。よのやどやけとぬヨ 眼七 眼七 眼七 眼七
「ハア。ニアせん

うう(六)重入あをさ入(七)重入ううすよ切幕を知てはのりぐ
うううううううううううううううううううううううう
その指杖(八)杖(九)杖(十)杖(十一)杖(十二)杖(十三)杖(十四)杖(十五)杖(十六)杖(十七)杖(十八)杖(十九)杖(二十)杖(二十一)杖(二十二)杖(二十三)杖(二十四)杖(二十五)杖(二十六)杖(二十七)杖(二十八)杖(二十九)杖(三十)杖(三十一)杖(三十二)杖(三十三)杖(三十四)杖(三十五)杖(三十六)杖(三十七)杖(三十八)杖(三十九)杖(四十)杖(四十一)杖(四十二)杖(四十三)杖(四十四)杖(四十五)杖(四十六)杖(四十七)杖(四十八)杖(四十九)杖(五十)杖(五十一)杖(五十二)杖(五十三)杖(五十四)杖(五十五)杖(五十六)杖(五十七)杖(五十八)杖(五十九)杖(六十)杖(六十一)杖(六十二)杖(六十三)杖(六十四)杖(六十五)杖(六十六)杖(六十七)杖(六十八)杖(六十九)杖(七十)杖(七十一)杖(七十二)杖(七十三)杖(七十四)杖(七十五)杖(七十六)杖(七十七)杖(七十八)杖(七十九)杖(八十)杖(八十一)杖(八十二)杖(八十三)杖(八十四)杖(八十五)杖(八十六)杖(八十七)杖(八十八)杖(八十九)杖(九十)杖(九十一)杖(九十二)杖(九十三)杖(九十四)杖(九十五)杖(九十六)杖(九十七)杖(九十八)杖(九十九)杖(一百)

